

## 第19回 (須賀川高校野球部顧問 箭内寿之)

「マキャヴェッリ語録」塩野七生 (新潮社・新潮文庫)

マキャヴェリズムは「権謀術数主義」と誤解され、悪名高いものです。しかし、浅薄な倫理や道徳を排し現実を直視した中世イタリアの思想家、ニコロ・マキャヴェッリの残した言葉には含蓄に富むものが数多くあります。以下、いくつか本文を抜粋することで紹介します。

●人間いかに生きるべきか、ばかりを論じて現実の人間の生きざまを直視しようとしない者は、現に所有するものを保持するどころか、すべてを失い破滅に向かうしかなくなる。

●われわれの宗教 (キリスト教) は、真理と正しい生き方は教えてくれるが、現世的名譽を重んずることは教えてくれない。

●君主 (指導者) たる者、酷薄だという悪評をたてられても気にする必要はない。歴史は、思いやりに満ちた人物よりも、酷薄という評判だった人々のほうが、どれほど民衆を団結させ、彼らの信頼を獲得し、秩序を確立したかを示してくれている。

●人間というものは、自分を守ってくれなかつたり、誤りを質す力がない者に対して、忠誠であることはできない。

●君主 (指導者) にとっては、愛されるのと恐れられるのとどちらが望ましいであろうか。…私は愛されるよりも恐れられるほうが、君主にとって安全な選択であると言いたい。なぜなら、人間には、恐れている者よりも愛している者のほうを、容赦なく傷つけるという性向があるからだ。

●軍の指揮官にとって、最も重要な資質はなにかと問われれば、想像力である、と答えよう。

●優れた指揮官ならば、次のことを実行しなければならない。

第一は、敵方が想像すらもできないような新手の策を考え出すこと。

第二は、敵将が考えるであろう策に対して、それを見破り、それが無駄に終わるように備えを完了しておくこと、である。

●真の防衛力とは、ハード面での軍事力だけではない。軍の評判というのも、軍事力に数えられるべきである。

●天国へ行くのに最も有効な方法は、地獄へ行く道を熟知することである。